

君たち投票行かないの？



参院選について話し合う学生ら—浜松市東区の中日新聞東海本社で

「投票所が山の上に」政策が伝わってこない」

「今の政治 不満ない」しがらみでおかしい」

若者は投票に行かない。恐らく、今の高齢者が若者のころから言われ続けてきたことだろう。今回の参院選でも若者の選挙離れが懸念されているが、では、どうすればいいのか。静岡文化芸術大（浜松市中央区）の学生と記者が語り合う「新聞カフェ」選挙スペシャルとして、いまだ「若者の一言」である記者が曰く、頭に思いをめぐらしてみよう。「別に行かなくてもいいんじゃない。」（鎌倉優太、27歳）

徴兵制問うなら？「行くかも！」



「今回の選挙、投票に行きますか。」
「投票所が山の上にある」「何かのついでだったら行くかも」。一同、あまり気は進まない様子。
「じゃあ、もしも」徴兵制の導入を決める選挙だったら。
「ああ、だったら行くかも」と五人。うーん、「政治に興味がない」というより、「興味ある政治がない」とのことか。
「実際、候補者が何をやるのかってあんまり伝わってこない」「おたんツイッ

ターで流れてくるとおかしな政策とか、それは違うって思うけど投票に結びつかない」と鎌倉優太さん(27)。
鈴木弥生さん(20)は「今の政治に不満はあんまり感じていない。私たちが年をとって、いろんなことが分かるようになったら行くんじゃないかな。今投票に行

行く層って、若い層は投票に行かなかったのでは」と疑問を口にした。
確かになさ。大人になればしがらみも増える。自身の考えをいうより、属する団体や組織、有名人だから、とついでに投票する大人だって多い。
「さういっちゃんと考えずに投票するのはおかしいと思っ」。これも異口同音。
「じゃあもう、選挙に行かなくてもいいよ。何も考えずに投票して、率だけアップさせても仕方がないし。投票したって思った時にすればいいんじゃないの。」

「だって、みんな選挙に行けないのは罪悪感がある」。野田佑理香さん(20)が口感うようにぼつり。
「みんな行かなくなったら、やばいと思っ」と鈴木さん。
同大文化政策学部の加藤

裕治教授(40)は「戦後、日本が豊かで平和な社会になった」との表れでは」と議論を聞いて総括した。一方で、「投票権を得るまで、政治の亲身体験が必要ではないかと、日常生活の中で政治に